

第4回世界エンジニアリングデーに際して

本日は、第4回世界エンジニアリングデーシンポジウムに多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。日本工学会は、1879年（明治12年）に工部大学の第1回卒業生23名によって創立された「工学会」が源となります。その後、個人会員制から学協会を会員とする体制に変更され、現在に至っております。現在は約100の学協会により構成されております。

日本工学会は、我が国の工学系学術団体の原点であるとの認識のもとに、工学及び工業の包括的な振興と学際的な連携を通じて、人々の幸福を希求し、社会の持続的な発展に貢献することを目的に活動しております。また、日本工学会は、UNESCOの援助の下に1968年に設立された世界工学団体連盟（WFEO）に、1972年に日本学術会議とともに加盟が承認され、世界の工学コミュニティの一員としても活動を行ってきております。

世界工学団体連盟には、約100ヶ国が加盟し、世界中の300万人のエンジニアを代表しています。また、日本工学会は、UNESCOの援助の下に1968年に設立された世界工学団体連盟（WFEO）に、1972年に日本学術会議とともに加盟が承認され、世界の工学コミュニティの一員としても活動を行ってきております。世界工学団体連盟には、約100ヶ国が加盟し、世界中の300万人のエンジニアを代表しています。

UNESCOは2018年に世界工学団体連盟（WFEO）は創立日の3月4日を世界エンジニアリングデーとして制定しました。世界エンジニアリングデーの制定を契機に、エンジニアの活動を広く人々に認識され、あわせてSDGsの推進に貢献することをアピールする目的で3月4日に世界各国で記念行事が開催されることとなりました。今年で4年目を迎えます。

世界エンジニアリングデーが制定されたことを契機に、エンジニアの活動を広く社会に認識して貰うことと、あわせてSDGsの推進に貢献することをアピールする目的で、世界各国で記念行事が開催されることとなりました。今年で4年目を迎えます。

今年のWFEOのテーマは”Engineering innovation for a more resilient world”です。不確実性の高い時代にあって、レジリエントな世界を作るためにエンジニアが貢献していくことを示すためにこのテーマに選択したのだと思います。

私たちのシンポジウムのメインテーマは「多様性と包摂性のある社会のための工学の未来」としています。WFEOの掲げるテーマと同様に、未来に貢献する工学をテーマにしています。その中で、第1部の「技術者の役割・未来」では、若手技術者の活躍に焦点を当てました。また、第2部の「未来を拓く工学」では、社会課題解決への挑戦に焦点を当てました。

本シンポジウムは、ダイアログ形式で進めます。登壇者によるショートスピーチに続いて意見交換を行います。ダイアログとは、雑談でも、議論でもない自由な雰囲気で行われる創造的なコミュニケーションであるとされています。エンジニアの活躍を祝う日にふさわしい未来志向のシンポジウムになればと思います。本日は、素晴らしい方々にご登壇をお

願いすることができました。ご登壇される皆様には心より御礼申し上げます。ご参加いただいている皆様と一緒にダイアログを楽しみたいと思います。

最後になりますが、後援をいただきましたユネスコならびに日本ユネスコ国内委員会、日本学術会議、日本工学アカデミーはじめ、協賛いただきました日本工学会会員学協会、維持会員各社などの関係各位に篤く御礼申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

日本工学会会長 岸本喜久雄

2023年3月4日